

防蜂網の改良について (919)

阿仁署・担当区事務所 ○中島貞治
中嶋 実

はじめに

最近私たちの現場では、年々蜂刺されによる疾病が増えてきています。とくに今年度は長雨のせいか、蜂の巣が地際付近に多く作られ、この為、いくら事前見回りを徹底しても仲々発見することが出来ず、下刈や除伐作業中に鎌が直接巣に触れ刺されるという災害が多く発生しました。

参考までに、最近3カ年の発生件数を申し上げますと表-1のとおりで、平成元年度3件、2年度9件、3年度14件となっており、阿仁町(民間)では元年度57件、2年度62件、3年度53件となっています。このような現状から、私達はいくらでも蜂刺されによる災害件数を減少させるため、春先には、作業予定箇所に誘引補殺器を数多く設置し、作業時には、事前見回りを徹底すると共に、防蜂網、防蜂手袋の完全着用で作業しております。

ところで、私たちが現場で一番頭を痛めているのが防蜂網であります。蜂に刺されないような物であることは当然であります。何んと言っても普段の作業がし易いものでなければなりません。残念ながら、今まで数多くの防蜂網が配布されてきましたが、これぞというものが仲々ありません。それぞれ工夫されてきてはいますが、一長一短があるところです。そこで私たちは、現場で仲間と今まで配布された防蜂網について検討し合って試作し作業をした結果、これが一番良いのではないかと一定の結論を得ましたので、ここに発表させていただく次第です。

1. 防蜂網の検討

まず最初は、今まで配布された防蜂網に仮の番号をつけ従来からの作業経験により、それぞれの長所・短所を出し合いながら検討をしました。

(1) 第I型

ア 網目が細かいということから(ア)風通しが悪く暑苦しい、(イ)直射日光に正対したときは目が眩んで足元が見にくい、(ウ)雨降りのときは水滴が膜となり見えなくなる。

イ ひさしがないので、網が顔にくっつきやすい。

ウ 裾は、縁どりをしているので丈夫である。

(2) 第Ⅰ型の改良型

これは第Ⅰ型にひさしを付けたもので、網が顔にくっつくという点は改良されたものの、風通しが悪い、足元が見にくい、水の膜が張るという点は第Ⅰ型と全く同じす。

(3) 第Ⅱ型

ア 色が茶色であり、これは黒より見通しが悪く、目も眩む。

イ ナイロン製で網の糸も太く暑苦しい。また、蜂にとっては網に止まりやすくなり刺されやすい。

ウ ひさしがないので、網が顔にくっつきやすい。

エ 裾は縁どりをしているので丈夫である。

(4) 第Ⅲ型

ア 網目が大きいということから、(ア) 風通しは良い、(イ) 見通しも良い、(ウ) 雨が降っても水滴が膜にならない。が、逆に、杉の葉や枝が引っかかり易くとくに地拵作業のときは仕事にならない。

イ ひさしもあり、また中間に針金の輪が付いているので、直立しているときは顔に当たらないが、かがんだときは材料が綿でもあり顔にピタリとくっつく。

ウ 裾は縁どりはしていないが、材料が丈夫であるので現状のままで良い。

(5) 第Ⅳ型

これは第Ⅲ型の黒い網を白い網にし、目の部分だけを黒の目の細かいものにしたものです。

ア 目の部分を細かい網目にしたことから(ア) 直射日光に正対したときには目が眩んで足元が見にくい、(イ) 雨降りの時は水滴が膜を張り見えなくなる。

イ 目の部分以外の網目は第Ⅲ型と同じく荒いことから(ア) 風通しは良い、(イ) 見通しも良いが、やはり杉の葉、枝がくっつき易く仕事が著しくやりにくい。

ウ 裾は材料が綿であり、特に縁どりをしなくても丈夫で切れない。

エ かがんだ時には顔にくっつきやすい。

(6) 第Ⅴ型

これは今年度配布された防蜂網ですが、第Ⅳ型の目の部分の黒色の細かい網を、防蜂網前面（約33cm巾）全部とし、それ以外の網を綿よりやや太いナイロン製のものとし、長さも腰まで届くものであります。使用に当たっては、脇の部分に腕を通す穴をあけ、自由に動かせるようにし、裾は紐を網目に通して腰にしっかりと巻き付けて使用することとなっているものです。しかし、これも又今まで述べたように

- ア 前面の黒色の網目が細かいことから、（ア）直射日光に正対したとき、目が眩んで足元が見えにくく不安感を覚える（イ）雨降りの日は水滴が膜となり見えなくなります。
- イ 前面上部の中央にヒダを取っているので見にくい。
- ウ ナイロン製のため、夏場は相当に暑苦しい。（綿と違って杉の葉、枝はつきにくく仕事はし易い）
- エ 黒の目の細かい網と白い部分の網と材質が異なることから作業中継ぎ目の部分（黒い網）が縦に裂け易い。
- オ 脇に穴をあけ腕を通すこととなるので、脱着に不便である。という難点があります。

2. 改良防蜂網の作製と使用結果

以上のことから、私たちの現場では、第Ⅴ型を次のように改良することにしました。

- （1）前面の黒く細かい網を、顔面の部分だけ第Ⅲ型の網目の大きいものを使用しました。このことによって、ア、直射日光と正対しても目が眩んだりすることなく、従って足元が見にくいという欠点もなくなり、また、イ、雨降りの日でも水滴が膜を張って見えなくなるということもなくなりました。
- （2）顔面の部分以外は、多少暑苦しいという難点はあるものの、杉の葉や枝がつきにくく、仕事がし易いという点から、現行のナイロン製をそのまま使うことにしました。このことによって縦に裂けるということもなくなりました。
- （3）また、脇の部分は腕を通す穴をあけるということではなく、肩から腰までの部分を直線上に裁断して使用することとしました。このことによって脱着が簡単にできるようになりました。
- （4）裾は材料が丈夫なため縁とりする必要はありませんが、長く使用している

とぶさぶさとなってきますので一応縁どりをすることにしました。試作品の作製に当たっては、網目の大きさや強さの異なるものを裁断し、縫い合わせるということが男の手では仲々思うようになりませんでした。が、使用した結果は、前にも述べておりますが、防蜂の役目を果たしており、また、作業がやり易いという点では満足のいくものであると思っています。

おわりに

以上、私達が現場で検討し合い、改良した防蜂網で作業に従事してきた訳ですが、現段階では、今まで使用してきたものの中では最も良いということとなりました。これとても他の担当区なり他の営林署で使用した場合には、さらに改良すべき点もあろうかと思えます。これからも仲間と色々話し合い、蜂刺され災害を少しでも減少させるよう努力していくことを申し上げ発表を終わります。

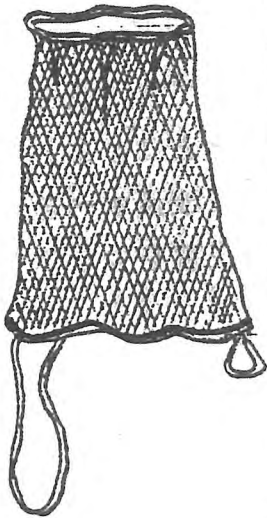
表-1

区 分 \ 年 度	平成元年度	平成2年度	平成3年度
阿 仁 営 林 署	3件	9件	14件
阿 仁 町 (民 間)	57件	62件	53件
計	60件	71件	67件

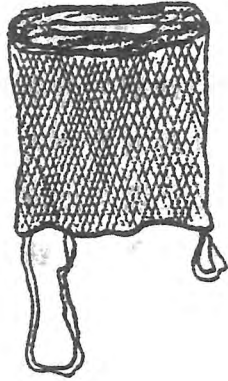
注：いずれも阿仁町立病院で治療を受けたもの。

(写真)

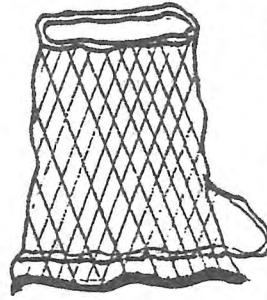
才 I 型



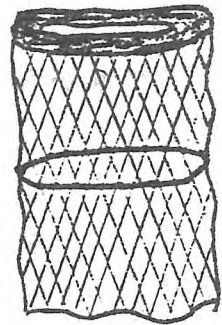
才 I 型の改良型



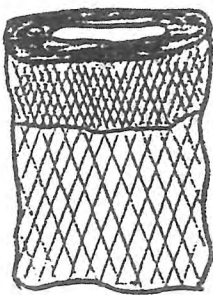
才 II 型



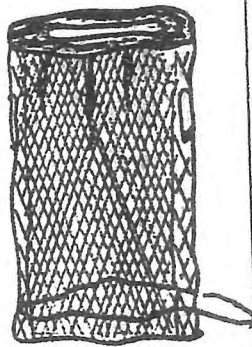
才 III 型



才 IV 型



才 V 型



改良型

